



が見つけた遠隔授業での学び

本企画は、遠隔授業を受けている福大生の皆さんにインタビューし、遠隔授業での学びや大学生活について紹介するものです。学生の皆さんには、同じ学友としての仲間が苦労しながらも頑張っている姿をとおして、少しでもヒントを得てもらえればと思っています。七隈キャンパスに集えない状況ですが、福大生たちが共に学んでいる様子をお伝えしていきます。



工学部電子情報工学科
2年次生

安部 浩気 さん

Case4：“好き”を活かせる遠隔環境

今回のインタビューは、工学部・電子情報工学科2年次生の安部浩気さんです。中学の頃からオンラインゲームに興味を持ち、パソコンやオンライン環境に慣れ親しんできたという安部さん。これまでのオンライン上での経験や理系の知識を活かして、ボイスチャットなどを駆使することで、対面と似た環境を模索しながら遠隔授業を受けているそうです。そんな安部さんに、対面授業やキャンパスに行くことの良さも含めて語っていただきました。

遠隔授業の開始に戸惑いはなかった

他大学の友人から遠隔授業が始まったということを知っていたので、遠隔授業になることに戸惑いはありませんでした。むしろ、通学に時間を費やす必要がなくなり、コロナの感染の心配をせずに授業を受けられたので、喜びのほうが大きかったと思います。もちろん、FUポータルなどのサイトが時々繋がらなかったり、ネット環境によっては声が途切れたりといったオンライン特有の問題はあると思います。ただ、思っていたより心配することや困ったことはありませんでした。個人的には、対面型の大人数授業などでは周囲の動向が気になる性格でもあったので、今は一人で気楽に受けられている印象です。また、遠隔授業ということで、先生方も違った対応を取ってくださっているので、私の受講している授業では通常通りに受けられていると思います。

これまでと変わらない学び方

授業内容が難しいと思うことはありましたが、遠隔授業だから特に「大変だな」と感じることはありません。課題の量についても、多すぎて困っているということはないです。同じ学科の友人たちとも、学年の進行に伴う難易度アップで「難しいね」と話をすることはありますが、課題量が多いことが話題にあがった記憶はないですね。理系の科目だからかもしれませんが、1年次の対面授業でも同じ量の課題や宿題が出ていました。

受講している授業の中に、リアルタイム配信型とオンデマンド型を併用した授業があるんですが、リアルタイムでわからなかったときや復習するときに、オンデマンドの動画を確認できるのはとても助かります。ちなみに、リアルタイム配信型の授業中は、電子レンジを使わないというトリビアがあります(笑)。無線LANと電子レンジの周波数が同じなので、通信が不安定になることがあるそうです。

オンデマンド型の動画は基本的にはいつでも観れますが、私自身はできる限り時間割通りの時間に観るようにし

ています。動画を止めたり、もう一度観たり、自分の理解のスピードに合わせて動画を観ていますが、その際、**わからないところを棚上げするのではなく、授業時間と決めているところで理解し終わらせるように集中し、授業時間と自分の自由時間とでメリハリをつけられるように意識しています。**

成績評価については、対面形式での定期試験がなくなった代わりに、オンラインで試験をする科目と、授業内の課題等の評価で成績がつく科目があって、その区別は分かりづらかったです。ただ、オンラインで試験をやる場合も、従来の対面授業での準備と同じですね。試験の範囲が示されるので、教科書や授業スライドを見返したり、要点を押さえるために過去問を解いたりしています。

対面授業時に似た環境の模索

今使用しているパソコンは、リアルタイム配信型の授業であっても、マシン性能で基本困ることはありません(Wi-Fi環境要因以外でパソコン動作が重くなったり固まったりすることはないとのこと)。理系なのでともともとパソコンが必要で入学時に購入していました。大学の推奨パソコンと迷いましたが、高い買い物だったので慎重に自分で選び「同じ額ならこっちのほうが性能いいな(笑)」と判断して今の相棒を購入しました。ディスプレイも、授業では1つで足りると思いますが、大小2つ使っています。大きい画面で授業を映しながら、小さい画面で授業のスライドを見たり、分からないことを検索したりしています。



同じ学科の友人5人くらいでディスコード(オンラインで多人数で会話などが出来るフリーソフトウェア)のボイスチャットで話し合いながら、分からないことを確認し合って、授業の理解を深めています。友人と一緒に「これどうしたらいいんだろう」と考えるのは面白いですし、授業に

関する情報交換や困ったことがあったらよく話し合っていますね。授業以外でも、オンライン上で他大学の友達との繋がりがあって、日常生活の話などの雑談が出来て、ボイスチャットで話すだけでも気分転換になっています。

パソコンやオンライン環境に慣れるコツ

私は、中学の頃に友人とオンラインゲームを始めたのがきっかけで、パソコンやオンライン環境には慣れ親しんできました。オンラインゲームも突き詰めるとプログラムなので、楽しんでいるうちに「これはどうやって作られているのか」に興味を持つようになりました。そういう意味では今学んでいること（プログラミング）につながっています。また、オンラインゲームは、パソコンの性能に影響を受けてしまうので、パソコンのマシンのほうにも関心が向きました。

自分が、オンライン環境や遠隔授業に向いているというよりも、これは“慣れ”としか言えないと思います。例えば、**パソコンのツールは、誰でも使いやすくなるように最初から作られているので、初めて使う場合は不慣れでも、ある程度使い慣れれば、使い勝手が良くなってきます。**色々いじって失敗してしまうこともよくありますが（笑）、そうやって自分なりにでも使ってみて慣れていくことが大事だと思います。

少し話がずれますが、以前からクレーンゲームが好きなのですが、自肅中はゲームセンターに行けないため、もともと気になっていたオンラインのクレーンゲームを「ちょっとやってみよう」と思ってやってみました。オンラインだと遅延があるので、それを逆に利用して楽しんでいます。**パソコンの操作やオンライン環境が苦手だなと感じている人も、自分の興味があることをきっかけに慣れていけばいいのかなと思います。**

対面授業やキャンパスに行くことの意味

対面授業やキャンパスに行くことのメリットは色々あると思いますが、一つ挙げるとすると、**学生同士やサークルなどで交流の機会があり、コミュニケーションを必要とする機会が増えることだと思います。**オンライン環境でも、自分なりに色々工夫をすれば、コミュニケーションの量は変わらないかもしれませんが、オンラインの場合は、ど

うしても特定の人としか話さない、自分がこの人と話したいからこの人と話す、という感じになりがちです。なので、自分の場合は偶発的な機会はないに等しいです。だから、これまでは**キャンパスに行くと対面授業を受けることで、違うことを学んでいる他学部の学生や教職員の方などと、自然で多様なコミュニケーションの機会を得ていたのだなと気づきました。**通学には時間と費用がかかりますが、キャンパスに行くことは大事なのだと思います。

自肅期間をきっかけに資格試験の勉強を開始

最近、情報系の資格試験の勉強を始めました。参考書を買って独学でやっています。外に出にくい状況なので、これまでやっていなかったことを「やろう！」という感じでした。将来は、ITシステムのコンサルタント（企業等のシステムの運用方法を分析・評価して、運用コストを削減したり最適な形の提案を行う仕事です！）になりたいと思っていますので、そこにつながっていますかね。今受けている授業も直接将来につながっているかまだわからないですが、そのベースになっている実感はあります。

福大生へのエール

一人の友人作りから始めてみよう！

キャンパスに行けないために、特に1年生は友人や知人が少ない方々もいると思います。アドバイスと言うとおこがましいですが、まず一人の友人を作ってみることから始めてみませんか。一人の友人が出来ると、その友人が持っている繋がりに、自分もつながることができます。さらにその繋がりにまたつながっていきます。私の場合、同じゲームをする人がいて、その方の友人とも話すようになり交流の輪が広がっていきました。幸いなことに、我々の世代はオンラインという便利なシステムが広まっている環境にいます。趣味や興味があることからでもいいと思うので、一人の友人作りから始めてみてはいかがでしょうか。



注：Webでインタビューさせて頂いた内容を元に再構成しています。文責は、インタビュー担当者にあります。



目指せ！遠隔授業マスター☆

今回のキーワード：UIデザイン

みなさんはPCやスマートフォン、さらにはアプリを使うときに逐一説明書やマニュアルを確認しませんよね。これらのツールは「誰もが使いやすくなるように最初から設計されている」と安部さんも仰っているように、User Interfaceに工夫がなされています。初めてのアプリでも私たちがなんとなく使いこなせるのは考え尽くされ改善され続けているUIデザインの賜物！確かに、快適なものって共通点多いですね。そんなところに想いを馳せながら、遠隔授業の各種ツールをみっていると意外な発見があるかもしれません！



編集・発行：福岡大学教育開発支援機構（A棟地下1階）

内線：2852・2853 E-mail：kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

HP：http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/ Twitter：@fu_idshe

令和2年8月28日発行